

平成26年11月10日

第118号

NJ 素流協 News

平成26年11月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

視察研修会を開催 林業機械展・ セイホク(株)見学

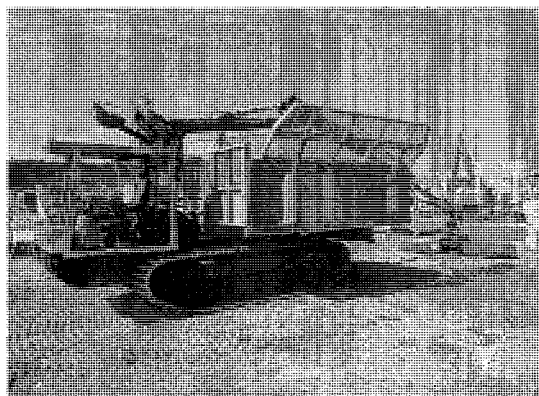
10月12日、13日の2日間にわたり、NJ素流協平成26年度視察研修会が開催され、組合員、事務局職員35名が参加した。

1日目は山形県新庄市で開催された「2014森林・林業・環境機械展示実演会」を、2日目は宮城県石巻市のセイホク(株)工場を見学した。

▽森林・林業・環境機械展

第38回全国育樹祭記念行事「2014森林・林業・環境機械展示実演会」(主催・山形県、一般社団法人林業機械化協会)は、山形県新庄市「新庄中核工業団地」において10月12日、13日に開催され、1日目の展示・実演を見学した。本年も昨年に引き続き木質バイオマス関連の機械が数多く展示されており、このうち、バイオマス対応型フォワーダは、拡張・圧縮が可能なバイオマス対応荷箱を搭

載し、用材運搬等の通常作業から枝葉・端材・伐捨て材などの林地残材の運搬まで幅広く利用できるもので、参加者の注目を集めていた。



バイオマス対応型フォワーダ

▽セイホク(株)石巻工場見学

2日目は、石巻市のセイホク(株)合板工場とパーティクルボード(PB)工場を見学した。同工場は平成23年の東日本大震災により甚大な被害を蒙ったが、現在は震災前の生産量を上回るまでに復興している。

セイホク(株)石巻工場は、再生可能エネルギーの活用を積極的に展開し、低炭素社会の実現に寄与

する取組みが評価され、経済産業省東北経済産業局より「平成22年度東北再生可能エネルギー利活用大賞(バイオマスエネルギー部門)」を受賞している。

同社は、「1本の木を300%活用する」木質資源循環システムとして、マテリアルリサイクル(材料再生)とサーマルリサイクル(熱利用)を融合させた取り組みを進めている。「300%」の考え方は次のとおりである。

*100%：間伐材やB材と呼ばれる短尺材・曲がり材を含む木材を、合板や単板積層材(LVL)に加工する。その過程で発生する端材はPBとして製品化し、木材の皮はエネルギープラントの燃料に使用する。

*200%：建て替え等により回収した廃木材から再び、PBを製造する。

*300%：繊維質が劣化し再生できない廃木材をエネルギープラントの燃料として活用する。

今回見学した合板工場、PB工



セイホク(株) PB工場

場では、原料に東北地方で生産された丸太のみを使用した製品「東北復興合板」や、原料に間伐材を使用した「森のめぐみボード」、震災解体木材を使用した「フェニックスボード」など様々な品目が生産されている。

参加者は、自らが日頃出荷している丸太が余すところ無く活用されているとの説明に、熱心に耳を傾けていた。

お忙しい中案内していただいた工場の皆様に、紙面をお借りして御礼申し上げます。

トピックス

東北地方森林整備事業連絡協議会

10月7日、秋田市内において平成26年度東北地方森林整備事業連絡協議会が開催され、東北6県の林業関係団体から24名が参加し、NJ素流協から下山理事長、高橋常務理事が参加した。

協議会では、国有林が発注する造林・生産請負事業等の現状と東北森林管理局への要望事項等について協議され、①事業の早期発注②発注規模への配慮③生産請負事業と造林請負事業の一括発注④労務単価のアップ⑤保安林における作業行為許可等手続きの迅速化⑥事業期間の延長、等の要望事項が取りまとめられた。

続いて全国素材生産業協同組合連合会・全国国有林造林生産業連絡協議会の岩田茂樹専務理事による講演会、東北森林管理局との意見交換会が行われた。

島根県素流協が来訪

10月14日、島根県素材流通協同組合の理事長、事務局長、組合員7名の計9名と、島根県職員3名がNJ素流協を訪れ、NJ素流協のバイオマス材供給に係る取り組み状況について研修した。

一行は室内でバイオマス材の管理方法等について説明を受けた後、現在建設中の一戸バイオマス発電所を訪れ、NJ素流協によるバイオマス材の納材状況等を見学した。



森林総合監理士 フオローアップ研修

10月15～17日、東京都八王子市の森林技術総合研修所において、森林総合監理士（フオレストア）フオローアップ研修Ⅱ（木材安定供給）が開催され、15日の講義においてNJ素流協高橋常務理事が講師を務めた。

26名の受講者は、最近の木材価格、需要者ニーズの動向、製材・合板工場等に入荷する素材の取引、加工・販売の現状把握等について学んだ。

全素協理事会に出席

10月16日、東京都千代田区のホテルメトロポリタンエンドモントにおいて、全国素材生産業協同組合連合会（全素協）理事会が開催され、全国から31名が出席した。NJ素流協から下山理事長、高橋常務理事が出席した。

理事会では、森林整備のための

予算の確保に向けて、①森林整備加速化・林業再生基金事業の予算確保と延長について②森林整備予算の拡充について③素材生産業の活性化・育成強化を図る諸対策の

予算の拡充について④森林吸収源対策推進のための税制上の措置について⑤適切な林産物貿易の推進について、の5項目が要望事項として採択され、翌17日、全国国有林造林生産業連絡協議会と合同で国会議員、林野庁幹部への要請活動が行われた。

また理事会では平成27年度林野庁関係予算概算要求の概要が示された。総額は26年度当初比17%増の3410億円で、6月に閣議決定された骨太の方針と新成長戦略に基づく「林業の成長産業化・森林吸収源対策の推進」に向けた施策が中心となっている。

森林整備等の公共事業費が22%増と大きく伸びているほか、人材育成、CLT等新たな需要の創出等が重点項目となっている。

輸出向け木材産地 連携検討会議に出席

10月16日、秋田市内において輸出向け木材産地連携検討会議（東北地方）が開催され、東北各県の国、県及び林業関係団体等から約20名が出席し、N J素流協から事務局職員2名が出席した。

これは、平成25年8月に策定された国の「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」に基づき、日本産木材のジャパン・ブランドの確立を目的として、一般社団法人日本木材輸出振興協会が事務局となり開催されたものである。

国の方針によると、これからはオールジャパンで、重点品目を重点国・地域へ積極的に輸出するため、産地間連携による安定的供給を目指すこととされている。

会議では、鹿児島大学遠藤日雄教授により国産材輸出の現状について話題提供があったほか、出席した各団体の輸出への取り組み状況等について意見交換が行われた。

岩手県森林・林業会議から 岩手県への提案要望

10月24日、盛岡市のホテルロイヤル盛岡において、岩手県森林・林業会議による岩手県への提案要望と県林業関係幹部職員との意見交換会が開催され、会員である22の団体の代表者が出席した。

N J素流協が所属する木材利用推進部会の要望事項は次のとおり。
◇木材生産と跡地の更新について
・「産・学・官」による持続可能な森林管理の方策及び再造林・広葉樹林対策を含めた「林業経営ビジョン」の構築と、施策の検討、国に対する要望活動、いわて森林づくり県民税事業の見直しを含めた必要な予算措置

・市町村に対する、森林・林業施策の指導・助言
・事業主体間のコーディネート・マッチング

・森林所有者等に対する再造林等の普及啓発
・低コスト林業の技術開発と支援

東北地区広域原木 流通協議会を開催

10月29日、盛岡市のマリオスにおいて、第2回東北地区広域原木流通協議会が開催された。これは、戦後造林した人工林が本格的な利用期を迎える中で、需要に応じた地域材の安定的・効率的供給体制の構築を目的とし、全国8ブロックで開催されているもので、東北地区ではN J素流協が事務局となっている。

協議会では規約（案）及び役員承認が行われ、会長にN J素流協下山理事長が選任された。続いて秋田県立大学飯島泰男名誉教授が座長となり協議が行われ、東北地区広域流通構想（案）及び協議会事業計画が協議された。今年度事業として、原木需給情報交換会議及び原木安定供給研修の開催、原木の共通規格による採材基準等の策定、材積測定システムの導入、木材輸送システムの構築等の取り組みが計画されている。

今月の名木・巨木 24

(岩手県岩手郡葛巻町)

葛巻町指定天然記念物

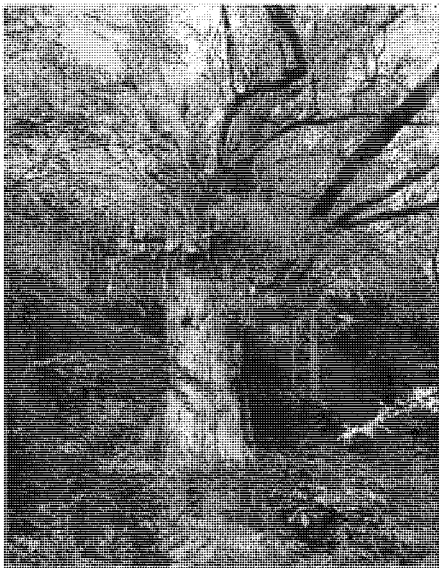
賀美の槻

指定…1987年7月21日

所在…葛巻町葛巻13-45

葛巻町指定天然記念物「賀美の槻」は、国道281号線の葛巻町中心部北側斜面に生育する巨木で、槻とはケヤキの古名である。

樹高約20メートル、根周り5.5メートル、推定樹齢360年(現地案内板より)とされ、町内では最大のケヤキの古木である。ケヤキはニレ科ケヤキ属の落葉



高木で、日本では本州以西に分布する。扇を広げたような樹形が美しく、各地で公園等に植栽されているほか、街路樹としてもよく利用される。また黄色、赤色と変化に富む紅葉の色は、遺伝的に決定されていることが分かっている。

槻の名前が歴史上の書物に登場するのは奈良時代まで遡り、「日本書紀」には次のような記載がある。

「中大兄皇子(なかのおおえのおうじ、後の天智天皇)が法興寺の槻の木の下で蹴鞠をしていると、鞠を蹴ったとき靴が脱げてしまっ

た。これを中臣鎌足(なかとみのかまたり)が拾い、皇子に手渡した。」

蘇我氏を倒した「大化の改新」の中心となった二人の出会いのシーンである。昨年この「槻の木」の広場」とみられる遺跡が奈良県明日香村で発見され話題となった。

児童生徒が植林を体験

10月29日、洋野町中野地区の山林において、久慈地方木材青壮年協議会(大粒来仁孝会長)の主催により、洋野町立中野小学校4年生の児童が植林体験を行った。

県北広域振興局林務部による植栽指導の後、カラマツのコンテナ苗・裸苗約200本の植栽作業が行われた。参加した15名の児童は、昨年行われた1回目の植林体験に参加していることもあり、慣れた手つきで作業を行っていた。



前号でご案内したとおり、当組合創立10周年記念式典及び記念講演会を左記により開催します。

NJ素流協創立10周年記念式典・講演会のご案内

記念講演会では、林業行政の中核において長年ご活躍されてきた前林野庁長官の沼田正俊氏にご講演いただきます。

貴重な機会ですので、奮ってご出席くださいますようお願い申し上げます。

【日時】平成26年11月25日(火)

【場所】ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

【内容】

記念式典 午後3時〜

記念講演会 午後4時〜

記念祝賀会 午後5時15分〜

*記念講演会

【講師】前林野庁長官

沼田正俊氏

【演題】「これからの森林・林業―林業の成長産業化に向けて―」

平成26年10月分の販売実績

樹種	合板用			その他製材用等			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	6,335	96.4	64.9	2,978	78.9	152.4	9,313	90.0	79.5
カラマツ	4,328	108.9	102.6	925	37.2	426.7	5,253	81.3	118.4
アカマツ	2,272	88.4	67.7	0	*	0.0	2,272	88.4	64.3
その他針葉樹	0	0.0	*	0	0.0	*	0	0.0	*
広葉樹	0	*	*	206	60.0	2,205.6	206	60.0	2,205.6
合計	12,935	98.2	74.6	4,110	61.7	174.1	17,045	85.9	86.5

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	4,522	192.1	813.5
カラマツ	2,367	304.5	541.4
アカマツ	569	106.4	*
合計	7,458	203.5	750.9

樹種	今年度累計			
	合板用 (m ³)	その他製材用等 (m ³)	計 (m ³)	バイオマス (t)
スギ	48,009	26,570	74,579	11,650
カラマツ	22,532	17,337	39,869	6,807
アカマツ	18,226	642	18,867	1,907
その他針葉樹	323	1,103	1,426	0
広葉樹	0	1,960	1,960	0
合計	89,090	47,613	136,702	20,363
目標達成率 (%)	50.6	61.0	53.8	56.6
計画量	176,000	78,000	254,000	36,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成26年10月の需要動向】

- スギは10月度も合板工場の減産が継続中、集成材は引き合いが高まり原木不足。
- カラマツはスギと反対に合板の引き合いが高まり、集成材の引き合いが落ち着いた。
- アカマツは10月度も納入制限あり、伐採最盛期に入ったため納入量拡大を依頼する。

落穂拾い

資源には枯渇性資源と再生産資源がある。枯渇性資源は、たとえば石油資源、鉱物資源などで人間が使い続けると枯渇してしまう有限な資源である。再生産資源は、農産物、林産物、水産物などで、主に人間の適切な働きかけで再生産が可能な資源である。

18世紀後半に起こった産業革命以降、我々人間は、科学技術の駆使によってより豊かな生活を確保することを名目に、拡大再生産の経済システムを基本として、石油資源や鉱物資源等の枯渇性資源を利用してきた。だが、枯渇性資源だけでなく再生産資源も含めて、資源には限界がある。現在、地球規模での環境破壊が進み、同時に資源は枯渇してきている。石油資源の枯渇、鉱物資源の枯渇、地球温暖化による耕作地の減少や乱獲による水産

「森林のもつ多面的機能の持続的な発揮」とか「森林は再生可能な唯一の資源」という言葉をよく聞く。果たして森林が無条件で再生可能な資源といえるのか。そして、森林のもつ多面的機能といわれるものを持続的に発揮させることが我々人間にとってどういう意味を持つのか。

「資源」という概念は、簡単に言えば、人間が生きていくために必要不可欠なモノであるということだ。人間以外の動物・植物が生きていくために必要な、たとえば獲物という食物や土壌中の栄養分も、人間流に言えば資源といえようが、それら動物・植物等自体は資源とは認識していない。人間だけが「資源」と認識し、必要不可欠なモノと考えるのである。だから資源が枯渇することを重大事として大騒ぎするのであり、近年は特にそうである。

資源の枯渇、耕作地の開墾拡大や薪炭材の過剰な採取等による世界的な森林面積の減少等々、あらゆる資源が急激に枯渇しつつある。要は「使い過ぎ」によって資源の枯渇が急速に進行しているのである。

石油資源や鉱物資源が有限であるのは承知の助であるが、農産物・水産物・林産物などの再生産資源と呼ばれるものも有限である。となれば、閉鎖系の宇宙船・地球号に住む我われは、枯渇性資源を使うときに派生するマイナスの影響をいかに減らしつつ「食い延ばすか」ということであろう。再生産資源については、人間は、その「再生産の可能性」を具体的に実体化するためには、枯渇性資源を使う場合よりも、もつともつと知恵を働かせなければならぬだろう。なぜならば、農産物、水産物、林産物の生産環境は空間的にも時間的にも枠(限界)がある。その枠を踏み外すと、枯渇性資源と何ら変わらないことになるであろう。その枠を守ろうとすると、周囲からあらゆる圧力が掛ってくる。それゆえに、知恵の出どころと言ったのである。

わが国の森林・林業の実態を見ると、森林蓄積は8千万m³/年増えているという。平成32年までに国産材供給量を4千万m³/年にすると、成長量の増加を考えると、国産材供給量を賅えるということだろう。一方、岩手県の年間伐採跡地には4分の1の面積にしか植栽されていないという統計がある。

森林は地球温暖化の元凶の一つである二酸化炭素を吸収し、炭素を固定することから地球温暖化防止の役割を持っているという。再生エネルギーとしても木質バイオマスの有効活用が叫ばれている。「森林は再生可能な唯一の資源」という知識と現在の森林・林業の実態との乖離をどのように考えたらよいのか。

資源の枯渇、耕作地の開墾拡大や薪炭材の過剰な採取等による世界的な森林面積の減少等々、あらゆる資源が急激に枯渇しつつある。要は「使い過ぎ」によって資源の枯渇が急速に進行しているのである。

石油資源や鉱物資源が有限であるのは承知の助であるが、農産物・水産物・林産物などの再生産資源と呼ばれるものも有限である。となれば、閉鎖系の宇宙船・地球号に住む我われは、枯渇性資源を使うときに派生するマイナスの影響をいかに減らしつつ「食い延ばすか」ということであろう。再生産資源については、人間は、その「再生産の可能性」を具体的に実体化するためには、枯渇性資源を使う場合よりも、もつともつと知恵を働かせなければならぬだろう。なぜならば、農産物、水産物、林産物の生産環境は空間的にも時間的にも枠(限界)がある。その枠を踏み外すと、枯渇性資源と何ら変わらないことになるであろう。その枠を守ろうとすると、周囲からあらゆる圧力が掛ってくる。それゆえに、知恵の出どころと言ったのである。

わが国の森林・林業の実態を見ると、森林蓄積は8千万m³/年増えているという。平成32年までに国産材供給量を4千万m³/年にすると、成長量の増加を考えると、国産材供給量を賅えるということだろう。一方、岩手県の年間伐採跡地には4分の1の面積にしか植栽されていないという統計がある。

森林は地球温暖化の元凶の一つである二酸化炭素を吸収し、炭素を固定することから地球温暖化防止の役割を持っているという。再生エネルギーとしても木質バイオマスの有効活用が叫ばれている。「森林は再生可能な唯一の資源」という知識と現在の森林・林業の実態との乖離をどのように考えたらよいのか。